

秋田県中学生生活活性化選手権

15日(土)に第3回秋田県中学生生活活性化選手権県北大会がニツ井公民館で開かれました。

本校からは、伊藤菜々心さん、佐藤愛夏さん、高橋美羽さん、佐々木結さん、佐藤桜さんの3年生女子5名が、なべや製麺さん取材して考案した、たくさんの地域活性化策を発表しました。

昔から能代に根付いているものにも目を向けて大切にしていくことが若い世代に求められている。これからもアイデアや活気を東雲地区から発信していきたいと締めくくりました。

◇ユニークなアイデアがたくさん◇

流しうどん
きりたんぽうどん
わんこうどん
運動会のランチうどん
給食にソフトめん
向能代駅立ち食いうどん
のしろちーね
U(うどん)フェスの開催

などなど



能代市青少年防犯弁論大会

13日(木)に本校体育館を会場に防犯弁論大会が開催されました。本校からは2年佐藤真澄さんと3年大倉悠さんが出場しました。今回は、佐藤さんの優秀賞の作品を紹介します。

「違いを受け止めて」

佐藤 真澄

ある日、友達が、いつになく暗く沈んでいるので「どうしたの?」と声をかけてみると「テストの点数が悪くて・・・。」と言うのです。「何点だったの?」と聞くと、七十点だということです。私は驚きました。もし、私が七十点だったら大喜びするのに、彼女にとっては落ち込む点数だったからです。仲がよくて、人はそれぞれ価値観が違うのだなと初めて感じた出来事でした。そして、それは家族でも同じです。血が繋がっていて、似ているはずの家族であっても意見が違うということは、よくあります。

話は変わりますが、私は昨年、旭川で起きた女子中学生いじめ事件が気になり、少し調べてみることにしました。その女子生徒は、いじめに耐えきれず、寒い二月に家を出て、約一ヶ月後、雪の下から発見されたのです。凍える寒さの中、彼女は最後に何を思ったのでしょうか。そんな悲惨な結果をもたらすいじめ。実は、私も悩んだことがありました。たぶん、皆さんのなかにも、少なからず、いじめを見たり、いじめ

を受けたりして、苦しい思いや悲しい思いをした人があるのではないのでしょうか。誰もが、いじめは卑怯なものと思っているはず。それなのになぜ、いじめはなくなるしないのでしょうか。

いじめる側の心理を調べてみると、いじめは「みんなと少し違う」ということで引き起こされることが多いと分かりました。いじめる側の人たちは、その少しの違いが我慢できないのです。どうやら「自分と考え方が違う人間がいる」ということが、大きな不安を生み、彼らはその違いを排除しようとする・・・それがいじめの原因の一つなのです。

先日、私は先生に勧められて友達と「出会いのコンサート」の手伝いをしてきました。そこでは、様々な障害をもつ人がいて、楽しそうに歌ったり、何度も練習したであろうダンスを、元気よく踊ったりしていました。なかには、歌を作詞するなど、いろいろなことに挑戦して、自分を表現している人もいました。そのひたむきな彼らの様子に、私ははっとしました。私は、これまで人と自分を比べ、自分ができないことがあると、言い訳したり何かのせいにしたりしていました。また自分と違うところがある相手を非難したり、同じようにできない自分を嫌いになったりすることが、よくあったのです。けれども彼らは違いました。障害を悲観することもなく、自分の障害、つまり人との違いをしっかりと受け止め、実に堂々としていたのです。また、出会いのコンサートでは、障害のある方々を支えている人たちの姿も見ることができました。彼らは、障害をまるで些細なことのように扱い、当たり前のように声をかけ、手を差し伸べていました。そこには、違いを乗り越えて支え合う、人と人との本来あるべき姿がありました。

最初に述べたように、人はどんなに仲がよくて、親子であっても、考え方や感じ方が違います。だから、その違いを理解し、足りないところを補い、支え合って生きていけば、もっとみんなが気持ちよく暮らしていけるはずなのです。人は十人十色、一人一人みんな違います。その違いを受け止め、思いやりで支え合って乗り越えていくことができれば・・・。いつかいじめがなくなる日が来るのではないかと、私は思うのです。

ソフトテニス県新人大会(秋田市雄和)

女子団体	ベスト8		
男女個人	ベスト16(3ペア)		
女子	佐藤真澄	佐藤花咲	組
	大山凧美	落合ひかり	組
男子	小林衣織	今井蓮	組